

平成29年度 学校評価報告書

島根県立益田高等学校

【合い言葉】「自立への道程(みち)」

【重点目標】 (1)進路保障 ① よりよい社会を創るとい目標を共有し、自己の将来の在り方・生き方を考える機会を通じて早期に進路目標を設定させ、進路実現に向かう意欲と態度を育てる。
② 進路決定に必要な情報の提供や面談等より、生徒の進路実現に向けた意欲を喚起し、日々努力する習慣を身につけさせ、目標実現に向けて必要な学力を獲得させる。

【教育目標】知性に富み、心身ともに健やかで、自らの力で未来を切り拓く生徒を育てる。

(2)学力保障 ① 習得・活用・探究を意識した授業改善に取り組み、生きて働く知識・技能と思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力などの学力（学ぶ力・学んだ力）を伸ばす。
② 「わかる・力がつく」授業を行い、自主的な学習を促すとともに主体的な学習に取り組む態度を育成して、やりきる力と個に応じた能力が身につくようにする。
③ スーパーサイエンスハイスクール事業（以下「SSH」）への取組を通して掘り起こした興味・関心・疑問を研究課題に深化させ、科学リテラシーと創造性の素地を育てる。

【教育方針】(1) 生徒の進路目標を早期に確立させ、その実現を支援する。（進路保障）

(2) 基礎基本に基づいた確かな学力を育成する。（学力保障）

(3) 豊かな人間性を養い、これからの社会をたくましく生き抜く力を育成する。（資質保障）

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価達成状況		評価	学校関係者評価		改善策
								考	察	
学校運営	環境整備 働きやすい職場環境の構築 学びやすい学習環境の構築		・教育目標及び重点目標を、全教育活動を通して達成する。 ・目標達成に向けた適切な学校運営を行う。 ・校内組織及び校務分掌を連携機能させる。 ・PTA活動を通して保護者との連携を密にし、その活性化を図る。 ・学習や進路実現を支援する適切な内容、量の蔵書を整え、利用しやすい図書館運営を行う。 ・ホームページや「学校だより」等により適切な広報活動を行う。 ・生活環境・学習環境の美化が保てるよう、積極的に清掃活動を行う。 ・費用対効果を考えた教育活動を行う上で、効率的・効果的な予算執行を行う。	・教職員の自己評価で3以上（4段階）を目標とする。	・合言葉「自立への道程(みち)」のもと、重点目標達成に向け、授業、学校行事、部活動、SSH事業、進路行事など全教育活動を通して、全教職員が努力した。	3.1	・様々な学校行事やSSH事業等を通して、失敗を恐れずに積極的にチャレンジしてもらいたい。仮にそれが失敗してもその悔しかったことや挫折をバネに、次のステップに進むことで「生きる力」が付き、逞しい生徒が育つ。 ・昔は小中学校において日頃から「本を読む」ように指導された。読書によって理解力、読解力だけでなく身に付けた資質や能力をどう使い、どのように活かせばよいかを学んだ。現在の部活動においても、その理解力があれば、練習時間も短くてでき、効率よく上達できる。 ・今年度の入学者数が定員の4/5を下回り、特に理数科は28人と少なく、今後益々生徒数の確保が危ぶまれる。 ・万が一一定数減となった場合、教員数が減っていき教育の質の低下が目に見えている。1学年5クラスの現状維持ができるかどうか、益田高校にとっての死活問題である。	3.2	・第4期SSH事業2年目として、「普通科文系課題研究」「データサイエンス」等の新規プログラムに向けて、SSH事業部だけでなく、他分掌や学年会との連携を密にしプログラムの計画・運営に当たりたい。 ・今年度以上に分掌間の連携を強く意識し、教育活動を効果的に実践する。 ・学校とPTAの双方向の活動として今年度初めて取り組んだ「保護者と教員の語る会」の良かった点を工夫・継続し、PTA活動全体の活性化を図る。 ・今年度同様、秋の読書週間に読書推進活動としてポップコンテストを継続する。 ・図書館が校内の学習センターとなるように「学びのガイド」の利用方法をさらに検討するとともに、授業・LHR等での図書館の利用のための環境整備を行う。 ・ホームページやフェイスブックの更新を迅速にして、多くの方々に益田高校の「今」を知ってもらう。また、緊急メール加入率の引き上げを図り情報伝達に役立てる。 ・生徒が清掃に時間いっぱい積極的に取り組めるように指導を継続する。また、生徒自身の机上あるいは机周り、ロッカー等の整理整頓を心がけさせる。 ・今年度も従前の執行方法が評価されているので、次年度以降も継続したい。	
					・教職員の多忙感を軽減するために、分掌、教科会、学年会の各組織間の連携に努めたが、行事の見直し・精選について次年度も継続して改善が必要である。	3.1				
					・毎学期ごとに「益高PTAだより」を刊行し、保護者・地域への広報に努めた。「保護者と教員の語る会」を実施し、双方向で語る機会を設けることができた。	3.3				
					・蔵書を適切に管理し、計画的に必要な書籍を購入するなどして、図書館運営がスムーズに行われた。また、他分掌と連携して必要に応じた資料提供を行った。	3.4				
					・利用しやすい図書館となるように館内外の掲示・展示等の工夫を心がけた。	3.3				
					・学校便り「いわみの」を隔月発行し、学校状況の広報に努めた。ホームページに加え、フェイスブックも開設し、各種行事の様子を迅速にかつ積極的に更新した。	3.1				
					・各掃除場所を担当のもと、チャイムとともに始まり・終わりの礼をして時間いっぱい取り組むように、次年度も全教職員できめ細かな指導を継続する必要がある。	3.6				
生活指導	豊かな人間性の育成 自他を尊重する精神の育成 豊かな人間性の育成		・生徒会や各種委員会をできるだけ主体的に活動させることで生徒の資質を伸ばす。 ・図書館から情報を十分提供し、読書や資料活用の推進を図る。 ・自他の権利を理解し、お互いに思いやり共生する心の育成に取り組む。 ・広報活動等を通して家庭や地域と連携しながら、人権・同和教育を行う。	・教職員の自己評価で3以上（4段階）を目標とする。 ・人権・同和教育研修会を開催し、共通理解を図る。 ・人権・同和教育LHRを全学年毎学期行い、その意識の高揚を図る。	・生徒会役員による学園祭企画運営、生徒会誌「ななお」編集などが教員指導の下、自主的な取り組みとなるように支援し、生徒の達成感を高めることができた。	3.2	・学園祭等で周囲を引っ張っている生徒たちは、必ずしも勉強ができる生徒とは限らない。各々の得意な分野を活かしてやっていただきたい。自己肯定感を育成しながら、多様な中で育った子ほど、社会に出たらたくましく強い。	3.3	・生徒会役員を中心に自主的、積極的に活動した生徒会活動を継続して活性化させ、学校行事のあらゆる場面で生徒の主体的な活動につながるよう支援する。 ・図書委員による「図書新聞」の内容を工夫し、読書啓発活動に努める。また、年度当初のオリエンテーションで、課題研究、小論文等の情報提供を推進する。 ・次年度も各学年正担任より人権・同和教育担当をつくり、より組織的に生徒一人ひとりの人権意識の向上に取り組む。 ・PTAに対しての積極的な情報発信や、人権センターをはじめとする地域との連携に取り組むとともに、講演会、HR活動などを公開するよう取り組んでいく。 ・SNSについての啓発を継続し、必要に応じて専門家による指導の機会を設ける。 ・安全安心アンケートも引き続き実施して、生徒の実態把握をする。 ・平日の部活動6：30終了や休日の勉強時間確保などの遵守を継続する。 ・自転車鍵かけマナーアップ推進校2年目となるので、交通委員会の活動を一層活発にし、マナーアップ向上や通学のルール等を遵守するよう取り組む。 ・次年度の芸術鑑賞会は、文化祭での3年生の演劇にもつなげるように演劇鑑賞を計画する。また、芸術科目における「グラントウ」の効果的利用を進める。	
					・学校教育のあらゆる場面で、常に基本的な生活習慣を確立することの大切さを伝えながら、風紀指導のときだけでなく、全教職員でその場での指導を心がけた。	3.0				
					・終了時間・下校時間の徹底が図れていない。今後とも学習との両立を呼びかける。	2.8				
					・交通安全週間に合わせた教職員や保護者による街頭指導を行いその意識を高めた。	2.9				
					・自転車鍵かけマナーアップ推進校として、十分な活動や成果をあげられなかった。	-				
					・芸術鑑賞会に加え、学園祭での3年演劇部門や文化部総合公演「マスティバ」の実施により、多くの生徒に芸術に触れる機会を提供できた。	3.1				
					・1年生の部活動退部者が多いことが気になる。部活動に興味を持たない子、団体スポーツを好まない子が増加していく傾向が続くのだろうか。 ・生徒の保護者送迎が多く、自主的に通学する生徒が少ないように思う。	3.1				
学習指導・進路指導	確かな学力の推進 基礎・基本の定着 知的応用力の育成 主体的な学習態度の育成		・学習習慣の定着と学力向上に向けた取り組みを適切に行う。 ・常に授業改善を意識し、指導力向上の施策を行い、教科指導の充実を図る。 ・土曜特別補習を行い、積極的に学習する姿勢と入試に対応できる応用力を育成する。 ・3年生の8限特別授業を効果的に実施し学力向上に役立てる。	・教職員の自己評価で3以上（4段階）を目標とする。 ・生徒による授業評価を1・2学期末に実施し、指導法改善及び指導力向上に活かす。	・学習習慣を定着させるために、学習の記録や時間調査を効果的に活用した。習熟度授業、モザイク授業により、各学力層に応じて個々の学力の伸張を図った。	3.1	・近隣小中学校の学力調査結果の公表もなく、特に「勉強しなくても大丈夫」の雰囲気蔓延しつつあり心配である。 ・高校入学後もその傾向が継続しているのではないかと聞か、中学校の底上げが課題になっていると聞か、中高の教員間で情報交換はできているのか。 ・家庭学習時間について、現在の学校が設定している目標時間を少し下げた達成できる生徒を増やせば、できた生徒のモチベーションが上がり、効果があるのではないかと聞か、成績不振で心配な生徒には、今まで通り学年会主導で定期考査前早くから部活動禁止にして、その意識を高め早期に計画性をもって学習に取り組むように指導してもらいたい ・生徒の学力差が激しいのであれば、習熟度別クラス編成はしないのか。 ・SSH事業でスタートした海外研修が、市の魅力化事業の中でグローバルリーダー養成事業として、市主体の企画となったことで、その内容の充実を期待したい。	3.2	・新しい学力観を踏まえながら教育課程を編成し、生徒の進路を保障する。 ・幅広い学力層の各層に応じて指導方法を改善し、評価方法も検討していく。 ・研究授業・公開授業期間以外でも、教科横断的な授業を試行するなど授業改善に努める。AI型授業やICT機器を利用する授業に積極的に取り組む。 ・土曜特別補習は、大学入学共通テスト等に向けて各教科で工夫して実施する。 ・特に英語科は、習熟度別に外部学校に向けた取り組みを継続する予定である。 ・3年生の2学期は例年同様、理社を中心として教科の進度を考慮し、生徒の学力実態に対応した授業となるように変更を加える。 ・大学入学共通テストに向けて「思考力・判断力・表現力」を重視した問作や、授業や教材研究はもとより、英語の4技能対応や推薦AO入試の利用を考慮しながら3年間を通しての進路指導全体計画を構築していく必要がある。 ・1年生対象の地域の企業人と語る「カタリバ」を継続し、職業観・勤労観を養う。 ・上級生対象に外部機関等と連携して、地元企業による説明会等を定着させる。 ・3月実施の進路決定者数名と市内小学6年生との「夢カタリバ」を継続する。 ・生徒一人ひとりの進路保障に向け、全校協力体制のもと必要な個別指導を継続していく。また担任による定期的な面談や教科担当による教科面談を続ける。 ・昨年度からタイ王国の海外研修は、市が中心となり継続実施することになる。昨年度までの反省等を活かして、より充実したものとなるように協力していく。 ・大学の先生力を借りて、2,3年SPにおける課題研究の更なる質の向上を図る。	
					・交通安全週間に合わせた教職員や保護者による街頭指導を行いその意識を高めた。	3.2				
					・自転車鍵かけマナーアップ推進校として、十分な活動や成果をあげられなかった。	2.9				
					・土曜特別補習の年間計画は立てるものの、その通りには実施できないため、各教科で工夫して対応している。特に英語は習熟度別に英検対策講座を実施した。	3.3				
					・県総体終了後、生活リズムの切り替えを意識して、3年8限補習を設定し展開した。学園祭終了後、理社を中心に3年8限授業を設定し効果的に実施した。	3.2				
					・各学年とも保護者進路説明会の開催や学年通信を発行し、保護者への進路情報の提供を行った。外部講師による学年別進路講演会等も企画し、生徒の進路意識や学習意欲の高揚を図った。	3.2				
					・地元企業による説明会を実施し、地元企業を知る機会を設けたり、特に1年生には「カタリ場」を実施し、多くの職業人とのお出合いにより職業観の育成を図った。	3.2				
安全管理	安全対応能力の向上 危機管理体制の確立 危機回避・対応能力の向上		・危機管理の手引きを作成し、事故発生時に対応できる体制を整える。 ・学校防災計画を作成し、計画的に実施する。 ・安全点検を計画的に実施し、安全な環境整備を図る。 ・危険な施設や設備を計画的に整備する。	・教職員の自己評価で3以上（4段階）を目標とする。 ・避難訓練、安全点検の実施について報告できる。	・危機管理の手引きを各個人ごとに配布し、緊急対応組織を整えた。	3.2	・校舎老朽化に対する改築修繕をPTAや同窓会と協力して積極的に要望していかないといけない。 ・夜間に校門前の横断歩道を通る生徒がドライバーから見えにくいと聞いた。校門前は照明を2基設置し明るくなったが、市の管轄となる横断歩道付近が改善されていない。 ・引き続き、事務部と連携しながら施設・設備の整備を図る。昨年度に続いて生徒棟、管理棟の屋上防水設備工事を、継続して計画的に進めていく。	3.3	・火災・地震・津波・水害の各訓練を通じて危機管理マニュアルの実行を確認する。 ・職員研修や事例を通し、本校の学校いじめ防止基本方針を周知する。 ・本校は地域の避難場所となっているので、災害時の受け入れについても検討していく。	
					・防災計画どおり実施できた。また、各学期ごとに避難訓練のテーマを設けて実施し、防災意識を高めることができた。	3.3				
					・保健部、学校衛生管理者、双方より安全点検を行い、対応可能な所についてはスピーディーに対応し、生活環境等の改善を行った。	3.3				
					・事務部を中心に、定期点検により発見できた箇所や、その都度指摘を受けた箇所の整備を積極的に進めた。要望のあったトイレの様式化は計画的に実施できた。	3.5				